

=====

THE VEDANTA KYOKAI

ヴェーダーンタ協会

日本ヴェーダーンタ協会の最新情報

2004年9・10月 第2巻 第8号

<http://www.vedanta.jp/multimedia/pdf/newsletter/index.html>

=====

ニュースレターをご希望でない方はタイトルを停止と書いて返信ください。

=====

告知

2005年1月16日にホーリー・マザーズ・ハウスのオープニング・セレモニーを開催致します。午前11時より。

当日はニューデリー・センターの長、スワミー・ゴクラーナンダジが来日、セレモニーでの講演をなさいます。

<http://www.vedanta.jp/>

現在、ニュースレターが遅れ気味ですが、翻訳の方のご好意によってなっています。できあがったものは、できるだけ早く流していく予定です。

目次

- ・かく語りき 聖人の言葉
- ・今月の予定
- ・2004年御嶽山リトリート
- ・今月の思想
- ・忘れられない物語
- ・スワミ、日本ヨーガ療法学会研究総会（広島）に出席
- ・スワミ、金沢で初講話
- ・9月の例会
- ・佐藤尚志氏ご逝去
- ・ホーリーマザーズハウス改築
- ・スワミ、カナダと米国を訪問

かく語りき 聖人の言葉

「祈りの言葉の中では神が我々万人の父であると認めていながら、日々の生活の中では他人を皆自分の兄弟として扱わないのなら、一体なんの役に立つというのだ？」 スワミ・ヴィヴェーカーナンダ

「母親が自分の命と引き換えにしてでも息子を守るように、真理を悟った者は

生きとし生ける物への無限の慈悲心を育みなさい。」 ブッダ

今月の予定

生誕日：

スワミ・アドワイターナンダ 9月13日(月)

スワミ・アベダーナンダ 10月7日(火)

スワミ・アカンダーナンダ 10月14日(火)

協会での催し物：

9月の例会 記事をご覧ください

10月の例会(逗子・新橋) 中止。「カナダ・米国訪問」の記事をご覧ください。

2004年御岳山リトリート (アシシ・グプタ氏寄稿)

毎年恒例の御岳山リトリート(霊性修養会)が、8月6日(金)の夕方から9日(月)の正午まで行われました。参加者は31名。うち16名は初参加でした。

リトリートのプログラムは昨年とほぼ同じで、5時に起床し、瞑想、ヴェーダの詠唱、バジャン(讃歌)、読書、ヨガ体操(自由参加)、朝食。9時からスワミの講話、瞑想(自由参加)、昼食。午後は質疑応答と誘導瞑想、お茶と散歩。夕方6時からアラーティ、読書、瞑想、夕食。最後に全員集会で一日が終了、午後10時に就寝です。参加者は、ほぼ一日中、沈黙を守る決まりとなっています。

初日(金曜日)の夕食後に行われたオリエンテーションで、スワミはこうしたリトリートのメリットについて話をされました。私たちは通常、日常生活を送りながら霊性の修養を積んでいます。それでも世俗的な考え方や振る舞いをなかなかやめることが出来ません。タクールはかつて、「在家の信者も神を悟ることは出来るが、可能な限り多くの日数、少なくとも一日は、世間から離れて一人になる必要がある。」と言われました。このようなリトリートに参加することで、私たちの心と肉体は霊性で満たされ、熱意も新たに日々の生活へと戻り、溢れる活力で奮闘努力し続けることが出来るのです。

土曜日、スワミは「世界を自分のものとすることを学ぶ」という題で講話をされました。このタイトルは、ホーリーマザーが肉体をお捨てになる五日前にある女性信者に残された、最後の助言の一部です。この講話は日曜日も続けられましたが、スワミはこんな冗談をおっしゃいました。「かつて、スワミ・ヴィヴェーカーナンダは、シュリ・ラーマクリシュナの助言について七日間にわたり講話をされたことがあります。私の場合、このわずかな能力では、ホーリーマザーの助言を説明出来るのは二日が限界です。」またスワミは、今回のリトリートから何かを持って帰るとしたら、この助言にしてほしい、と言われました。マザーの助言とは以下のようなものです。

「なぜあなたは恐れるのですか。」

あなたはもう師を見ているではありませんか。
平和を望むなら、他人のあら探しをはいけません。
自分の欠点をお探しなさい。
世界を自分のものとすることを学びなさい。
一人として他人はいないのです。
この世界のすべてが、あなたのものなのです。」

スワミは、この助言はマントラのようなものだと言われました。私たちの生活にとって非常に重要で意義のあるものなのです。例えば、ロンドンのセンターではこの助言を毎日、食事の前、「ブランマールパナム」の後に唱えています。今回のリトリート参加者にはこの助言を記した紙が配られ、昼食前に皆で唱えました。スワミは次のようにおっしゃいました。「この言葉の奥にある深い意味を考えて見ましょう。ただ読むのと学ぶのでは大違いです。普段、私たちは聖典を読んでいます、学んではいません。学ぶことで、この言葉から多くの光を得ることが出来るでしょう。数多く読むのではなく、少しでいいから学ぶ。これが私からのアドバイスです。」

丸二日にわたるスワミの講話の要旨は次の通りです。

「なぜあなたは恐れるのですか。」について：

「恐れ」の原因は様々です。中でも、「死の恐怖」と「苦しみの恐怖」は大きく、あらゆる生き物が経験する恐怖です。私たちは、病気、老化、死など様々な問題から逃れることは出来ません。心配するしないに関わらず、起こるべく事はすべて起こるのです。しかし、こうした出来事に対し、私たちは恐怖ではなく勇気をもって立ち向かわねばなりません。賢者と愚者との違い、霊性心のある者と世俗的な者との違いは、苦しみとどのように向き合うかにあります。肉体を持つ限り誰もが苦しみます。賢者、すなわち霊性心のある者であっても苦しみを味わうのですが、心の平和は保たれています。愚者は苦しみを受け入れず心を悩ますので、その苦しみが二倍になります。ホーリーマザーは、私たちは霊的知識と強さを持ち合わせているのだから恐れる必要はないとおっしゃっています。

最大の恐怖は死の恐怖です。誰も皆いつかは死ぬのだと分かっています。しかし、まだ先だと思っている。死と向き合う方法は様々です。物欲が強い人、快楽を追い求める人、無神論者は非常に大きな苦痛と恐怖を感じ、大変心配します。彼らは生に執着しているため、彼らの死に顔には恐怖の様がありありと浮かびます。克己主義者は冷静に死を受け止めますが、死の本質について深く探求をしたことがないので死の謎を解き明かせていません。ですから、彼らの死とはある意味、無知の死なのです。神を信じていると口では言う、名ばかりの有神論者もまた、死を恐れます。一方、霊性の求道者が死と直面する場合、努力の大きさによりその様子は異なります。信仰があれば、神の恩寵により、死と向き合っても何の恐怖も感じません。神への揺るぎない信仰を持つ者は、気持ちよく死を迎えることが出来ます。アートマンを悟ったジュニャーニもまた死を恐れませんが、なぜなら、アートマンは死ぬことはなく肉体が滅びるだけだということを知っているからです。

「あなたはもう師を見ているではありませんか」について：

「見る」とはどういう意味でしょう。夕方のアラーティ（礼拝）の讃歌「Khandan bhava bandhana（カーンダナ バーヴァ バーンダナ）」には「vikshane mohajay（ヴィークシャネ モハ ジャーイ）」という歌詞があります。これは「あなたを見ることで、妄想は打ち消される」という意味です。この「vikshane」というサンスクリット語は「非常に深く見る」という意味を表します。生きている間に見る、写真を見るという意味だけではありません。強い信仰心を持ち集中して見る、という意味でもあるのです。ある時、スワミ・シヴァーナンドは「タクールを見た者はすべて自由になるのですか」と聞かれ、こう答えました。「『見る』とは一体何か。それは、目で見ることではない。愛し、受け入れ、従うことなのだ。『シュリ・ラーマクリシュナの下（もと）に行く』のと同じ意味なのだ。物理的にそばにいることを言うのではない。愛し、受け入れ、従うことを言うのだ。だから、その意味においてシュリ・ラーマクリシュナを『見たことがある』と言うなら、何も恐れることはないのだ。」

「平和を望むなら」について：

恐怖は後ろ向きの感情、平和は前向きな発想です。ですから、今度は前向きな点についてお話ししましょう。「～なら」と言っているのは、万人が平和や穏やかさを望むとは限らないからです。たいていの人は五感への刺激を求めています。豪華な食事、映画、観光など、感覚を刺激する物を毎日欲しています。

「他人のあら探しをしてはいけません。自分の欠点をお探しなさい。世界を自分のものとすることを学びなさい。一人として他人はいないのです。」について：

これらの言葉は平和を得るための助言です。その核、その真髄は、「世界を自分のものとすることを学びなさい」という部分です。これには後ろ向きな点、前向きな点が共に含まれていますが、これこそが核心なのです。

なぜ私たちはあら探しをするのか。これには理由がいくつかあります。第一に、私たちはこう思っているのです。「他人に見られるような欠点には自分にはないに決まっている」と。誰かを、欲張りだ、怒りっぽいと批判する時、自分にはそんな欠点はないと思っています。もしくは、そういう欠点があったとしてももっと程度の軽いものだと思っています。聖書にも、「あなたは、兄弟の目の中にあるおが屑は見えるのに、なぜ自分の目の中の丸太に気付かないのか」とあります。こうしたあら探しの根本にあるのは、自己中心的な考え方と自己の性格・性質に対する誤った見方です。

第二の理由は、私たちは時として、他人の置かれた状況を正しく理解出来ない、ということです。こんな話があります。ある僧が、川で若い女性が流れに飲まれそうになっているのを見つけました。僧は川に飛び込み女性を抱き上げると、岸まで背負って行きました。一週間ほど経ったある日、仲間の僧がなぜ若い女性を背負っていたのかと詰問しました。僧侶は本来、未婚の女性に近づいてはいけなからです。女性を助けた僧が、その話をいつ知ったのかと尋ねると、仲間の僧は一週間前だと答えました。僧は言いました。「私は確かに未婚の女性を背負ったが、女性を降ろしてそれでおしまいでした。だが、あなたはその女性のことを一週間も考えていたんですね。」つまり、仲間の僧は状況を知らないために人を

非難したのです。こうしたあら探しの根本にあるのは、物の見方が狭いことです。第三の理由は、忍耐や愛が足りないことです。他人に対する忍耐や愛が少ないと、あら探しをしやすくなります。嫌いな人の欠点は目につきやすいですね。満足の度合いが低いと欠点に目が行きやすいものです。日常生活でこうしたことは実によく起こります。あら探しの根本にあるのは、忍耐、思いやり、満足の欠如です。第四の理由は、一種の精神病の場合です。これにはこんな逸話があります。あるキリスト教の牧師が、信者らへの説教の中で、イエス・キリストこそ唯一完全な人間であると明言しました。すると、彼の教区に住むある信徒が立ち上がって牧師の言葉に異を唱えました。男は、妻から何度となく前夫がいかに完全な人間であったか聞かされていると、皆の前で言いました。前夫は決して間違いを犯さず、寛大で思慮深く優しくたと妻はいつも言い、同時に男の欠点を指摘しては前夫と比較する、と男は言いました。こうした慢性的とも言えるあら探しは、一種の精神病だと言えるでしょう。

第五の理由は私たちが不完全なせいです。スワミ・ヴィヴェーカーナンダは、私たちは自分が不完全だからこの世の不完全さが目につくのだと言っています。例えば、子供の目の前で泥棒がお金を盗んだとしても、子供はそれが盗みの行為であるとは気付きません。聖人は私たちとは違い罪が見えないのです。聖人は、罪人の中にも聖人の中にも等しく神を見るのです。

あら探しには、言葉で表す場合と心の中で行う場合と二種類あります。さらに、言葉にするあら探しには、本人に言う場合と他人に言う場合とがあります。心の中で行うあら探しは、誰もが常にやっていることです。人の欠点を言葉で指摘するのはどうにかしてやめることが出来ますが、心の中のあら探しはなかなかやめられません。

では、次に、あら探しをした結果どうなるのか、考えてみましょう。

まず、私たちはその欠点を自分のものにしてしまいます。例えば、テレビや新聞で犯罪の報道を目にすると、わずかながらもその影響を受けます。そのことが忘れられなくなり、心の中に再び浮かんできます。瞑想の時さえ浮かんでくることあるでしょう。自分では望んでいなくとも、浮かんできてしまうのです。ホーリーマザーは、「洗濯夫は他人の衣類を洗っている間に自分も汚れる」とおっしゃっています。

また、あら探しをすることで心が揺れ動き穏やかさを失い、さらには心が狭くなります。あら探しにより自分の心にある自己本位の気持ちや憎しみが増幅されるのです。最初は欠点を見つけるだけですが、やがてそれが反感、嫌悪と悪化していき、最後には憎しみに変わるのです。

では、どうしたらあら探しをやめることが出来るのでしょうか。第一に、自己分析です。あの人のここが良くない、と思ったら、自分にも同じ欠点がないか考えてみるのです。そして、あら探しは良くないことだと自分に言い聞かせましょう。自らの欠点を見つけるのです。こうしたことをやればやるほど、人のあら探しをしなくなります。他人の欠点を探すことは、後ろ向きで非建設的な行為です。自らの欠点を探すことは、前向きで建設的です。

あら探しをやめる第二の方法は、人の良いところを見ることです。常に、物事の
良い面に目を向けるのです。こうした見方をしよう訓練すれば、次第に他人の
欠点を見なくなります。ラマクリシュナ僧団のブラマチャーリ（見習僧）にな
る儀式で行われる宣誓の一つに、次のようなサンスクリット語の一節があります。
『ハエは汚物を好み、ハチは蜜を好む。私をハチのようにして下さい。人の良い
ところにいつも惹きつけられるようにして下さい。』誰にでも、良い面と悪い面
があります。良い面を見ることで自分を高めましょう。悪いところを見て自分を
低めないで下さい。

第三の方法は祈ることです。ダクシネシュワル寺院でシュリ・ラマクリシュナ
と共に暮らしていたハズラー・マハシャヤは、しょっちゅう他人の批判をしてい
ました。そこで、シュリ・ラマクリシュナは次のように助言されました。『神
に祈りを捧げる時、このあら探しの癖を直して下さい。』つまり、この、あら探しという悪い癖を直すには、神の恩寵が必要なのです。シュ
リ・ラマクリシュナとホーリーマザーもこの悪い癖を直すのに祈ったことがある
んですよ！タクールは、自分が讃歌を歌っている時にラーニ・ラシュマニがぼ
うっとしていたので、彼女を叩いたことがあります。他の人を叩いたこともあり
ます。それで、タクールは心配になって、マーにこの癖が直るよう祈られたので
す。ホーリーマザーも、自分は初めのうち人のあら探しをしていたとおっしゃっ
ています。そして何度も祈ってこの癖を直されたのです。

さて今度は、あら探しと、愛や思いやりのあるしつけ・教育との違いについて考
えてみましょう。愛情も思いやりもなく人のあら探しをすることは後ろ向きで非
建設的です。親や教師など指導する立場にある人が他人の欠点を指摘する時、例
えば子供の過ちを指摘し正してやる時などは前向きな方法で行うべきです。愛も
思いやりもなくあら探しをすると口論や仲違いに発展します。どちらのためにも
なりません。あら探しは、相手への愛がある場合のみやって良いのです。相手へ
の愛情がないのであれば、むしろやるべきでないのです。

「世界を自分のものとすることを学びなさい。一人として他人はいないのです。
この世界のすべてが、あなたのものなのです。」について：

排他的、閉鎖的ではいけません。あらゆる人を一切区別することなく受け入れる
のです。スワミ・ヴィヴェーカーナンダはこう言っています。「耐えるのではなく
受け入れなさい。」忍耐は否定的で、受容は肯定的です。「お前なんか捨てて
しまいたいが、それが出来ないから我慢するよ」これが耐えるということです。
「ここへ来て一緒にいようよ」これが受け入れるということです。

こうした考えは聞いていて気持ちが良く納得出来るものですが、どうやれば実践
出来るのでしょうか。世界を愛するという考えには賛成しても、どうやって実行に
移せばよいのでしょうか。これには、人道主義者の取り組みと神を信じる者の取り
組みの、二通りがあります。人道主義には、愛の哲学、すなわち見返りの有無に
関係なく愛するという考えが欠けています。ですから人道主義者は、いろいろし
てあげても思っていた程認められないと、不満が残ることがあります。人道主義
者には、カルマヨガの発想が欠けているため、その取り組みはそれほど強いもの
でも心からのものでもありません。イシュワル・チャンドラ・ヴィディヤサー
ガルの例をお話ししましょう。彼は偉大な人道主義者であり学者でもあります。

晩年の彼は非常に落胆し失望していました。昔彼が助けてやった人々が後になって彼を批判していたということでした。彼はカルカッタの批判的な社会を去り、小さな部落で余生を送りました。

神を信じる者の取り組み、すなわち信仰の道は、世界を愛するのにより適した方法です。信仰の道には、すべてに神を見るバクタの道と、すべてにアートマンを見るジュニヤーニの道の二通りがあります。さて、どうやってこれを実践すればよいのでしょうか。愛は思うだけでなく実践すべきです。愛の実践は、時間とお金を使い行動で示すべきです。毎日人のために祈りましょう。人間だけでなく生き物すべてのために。そしてお世話をしましょう。自分の能力に応じて、特に、出来るだけ自分と関わりのない人達のお世話をするのはです。

こうすれば私たちは世界を自分のものに出来るのです。それが出来れば、自然にあら探しをしなくなります。平和を得られるだけでなく霊的にも進歩し、最後には神を悟ることになるのです。それにより、世界を変えより良い所にすることが出来るのです。

土曜の夕食後の集会で、マハラジは昔の生徒からeメールで送られてきた、あるスピーチの引用文を読み上げました。スピーチのタイトルは「成功の定義」というもので、スプロ・バグチ氏がIndian Institute of Management（インド経営大学院）で2004年7月2日に行ったものです。スピーチの内容はバグチ氏がこれまでの人生で様々な人から学んだ教訓についてでした。スピーチは、氏が母親から言われた忠告の言葉「go kiss the world（世界にキスをしに行きなさい）」で結ばれていました。では、そのスピーチで成功についてどのように定義していたのかお話ししましょう。

「私にとって、成功とは将来を見据える力です。目の前の苦しみに屈しない能力とも言えます。また、成功とは豊かな想像力です。さらに、地位も力もない人達を思いやること、より大きな世界との結び付きを感じることに、不屈の精神を持つこと、人生を楽しむことよりも充実させることに重きを置くこと、普通の生活を送りながら普通ではあり得ないような成功を収めること、これらを為すことが成功なのです。」

このスピーチの内容はインターネット上の様々なウェブサイトで見ることが出来ます。（次のURLでも見られます。

http://1stholistic.com/Reading/prose/A2004/liv_go-kiss-the-world.htm

日曜の午後には、膝や腰に痛みが出て来た参加者もいました。普段、一日六、七時間も床に座ることはなかなかないものです。しかし、霊性心を非常に高める環境に身を置けた喜びは、こうした体の痛みを勝るものでした。

参加者からは、日常生活の雑念から離れてこのような催しに参加出来たことは大変有意義で満足している、という声が数多く聞かれました。

（次号：あら探しについてのQ&A）

審判の日

神は、あなたの家の広さなどお尋ねにならない
神がお尋ねになるのは、あなたが真心を込めてその家へ迎え入れた人の数である

神は、あなたの服の枚数などお尋ねにならない
神がお尋ねになるのは、あなたが衣類を施してやった人の数である

神は、あなたの収入の最高額などお尋ねにならない
神がお尋ねになるのは、その収入を得るのにあなたがどれだけいやな思いに耐えたかである

神は、あなたの地位や肩書きなどお尋ねにならない
神がお尋ねになるのは、あなたが力の限りその仕事に打ち込んだかである

神は、あなたの友人の数などお尋ねにならない
神がお尋ねになるのは、あなたが友として接した人の数である。

神は、あなたの生活環境の豊かさなどお尋ねにならない
神がお尋ねになるのは、あなたが隣人にどう接したかである

神は、あなたの肌の色などお尋ねにならない
神がお尋ねになるのは、あなたの中身、人格である

(サイバースペースより)

忘れられない物語

良いものを手本とする

ある男が森を歩いていると、足のないキツネを見つけた。男が、キツネはどうやって生活しているのだろうと不思議に思っていると、そこへ獲物をくわえたトラがやって来た。トラは獲物を食べ始め、お腹が一杯になると、食べ残した物をキツネにやった。

次の日、神が同じトラを使ってキツネに食べ物をお与えになった。男は神の偉大さに驚嘆し、こう思い始めた。「私も神を信じてすべてをお任せしよう。私も何もしないで横になっていれば神が必要なものをすべて与えて下さるに違いない。」男は横になったまま数日待ったが、何も起きなかった。次第に衰弱していき、ついに瀕死の状態となった時、声が聞こえてきた。「お前は誤った道を進んでしまったね。真実を見抜きなさい。トラを手本にするのだ。キツネを真似るのはやめなさい。」

(『Soul Food』より スフィ著)

スワミ、日本ヨーガ療法学会研究総会でパネリストを務める
(平野久仁子氏寄稿)

2004年8月21日(土)、広島県民文化センターで開催された第2回日本ヨーガ療法学会研究総会で、スワミ・メダサーナンダはパネリストとして講話をされました。シンポジウムのテーマは、「The Spiritual Culture of Yoga in the Context of Japan (日本におけるヨガの精神文化)」で、スワミは日本語と英語で合わせて約三十分、お話されました。スワミのユーモアあふれる講話は好評でした。今回のご訪問で、スワミが霊性の修養を重んじていらっしゃるのがよく分かりました。

スワミは次のように言われました。「人生の目的は神を悟ることであり、信仰の形により様々な方法で達成することが出来ます。瞑想や自己分析により自分を高めていくには魂を意識すべきです。魂は最も大切なもので、植物の根と同じです。水をやるのは根であって、葉や枝ではありませんね。」

さらに、スワミはこう言われました。「私たちは死について真剣に考え覚悟をすべきです。そうすれば穏やかに生きることが出来ます。」「ヨガには道徳心や霊性心という文化があるので、日本の人々や社会に正しい方向を指し示すことが出来るでしょう。」

聴衆はマハラジの講話に大変感銘を受けました。

スワミ、金沢で初講演

石原氏と川崎さんのご尽力により、7月25日、スワミは金沢市で初めて講話を行いました。テーマは「信仰の道」。参加者はおよそ三十人で、通訳は伊藤氏でした。講話の後には、質疑応答と誘導瞑想が行われました。講演後、スワミは立山を観光しました。

9月の例会

今月のテーマは、「シュリ・クリシュナ神の教え」でした。シュリ・クリシュナは神の十人の化身の一人で、インド各地ではシュリ・クリシュナ神の生誕祭を9月6日に行います。協会では例会でシュリ・クリシュナの教えを取り上げるのが毎年の恒例となっている、とスワミ・メダサーナンダが説明しました。

スワミは数年前に、シュリ・ラーマクリシュナを始めとする神の化身について話をした時、日本人の信者の方から神の化身ということなぜそんなに強調するのかと尋ねられたそうです。その時、スワミは、日本には「神の化身」という考えがなく、神道や儒教、仏教にもそうした考えがないことに気付いたとのことでした。

(仏教では、ブッダは神と考えられているが神の化身ではない)。

一方、ヒンズー教では、神の化身という考え方は非常によく見られます。キリスト教では、イエス・キリストが「神の唯一の息子」であると考えられていますが、これは神の化身という考え方に通じています。また、イスラム教ではマホメットが「最後にして最大の預言者」だと言われており、これも同様です。ヒンズー教ではシュリ・ラーマやシュリ・クリシュナ、シュリ・ブッダを神の化身と呼ぶますが、ヒンズー教徒以外の方、あるいはインド人以外の方にはこの考え方が分かりにくいようで、実際に誤解されることがあります。

例えば、木像や石像などを神と見なして拝むことを考えてみましょう。ヒンズー教徒以外の人にとってはこのように像を拝むことが理解しがたく、ヒンズー教は偶像崇拜の宗教だと思われることがあります。「しかし、自分の親や祖先の写真を敬う時、紙を敬っているのでしょうか。その写真に親や祖父母の存在を感じるからではないでしょうか。同様に、ヒンズー教では像を拝む時、その像の中に存在が感じられる神に対して拝んでいるのです。」とスワミは言いました。

「また、アヴァターラという考えも誤解されやすい概念です。アヴァターラとはサンスクリット語で『現れる』『出現する』という意味で、神が人の姿を取って現れる時に使います。また、神の化身であるその人そのものを指す時にも使います。キリスト教において、イエス・キリストが神の唯一の息子であるのなら、私たちは神の子供ではないのでしょうか。子供の中には特に出来のよい子もいるものですが、そういう意味ではイエスは神の特別な息子であったのでしょうか。しかし、私たちもまた神の子供です。ですから、神の化身と呼ばれる人々が特別な存在であるのはこの意味においてなのです。」

「万物は神の現れですが、その神性には違いがあります。ある者は非常に神性が低く、ある者は高い。そして中には最高の神性を持つ人もいます。つまり、神の化身と呼ばれる人は、最大で最高の神性を持ち合わせているのです。こう考えれば神の化身とは何であるか分かってもらえるでしょう。」

「では、神性の現れ、特別な体現とは一体何でしょう。神の特質には、無限の知識と英知、無限の力、無限の慈悲、無限の愛など様々なものがあります。あらゆる人間にはこうした特質が存在しますが、その大きさは非常に限られています。神の化身と呼ばれる人々には、こうした特質が大きく見られるのです。神性の現れとはこうした特質の体現を意味するのです。ですから、このような意味において、シュリ・クリシュナもまたアヴァターラなのです。」

「シュリ・クリシュナの生誕日については多くの説がありますが、少なくとも二、三千年前だと思われます。では、シュリ・クリシュナの教えはもう時代遅れなのでしょう。いいえ。よく考えてみれば分かることですが、その教えは今日も役に立つ、生きた教えと言えます。ブッダやイエス・キリストも遠い昔に生まれ、その後人々の営みや世界は大きく変わりましたが、その教えは今も生きています。なぜでしょう。彼らの教えは魂、心、感覚に関わることだからです。魂や心、感覚がある限り、その働きは変わりません。彼らの時代にも、利己心、嫉妬、憎しみ、虚栄心はありました。三千年前にも、人は同じようにねたみ、憎み、弱かったのです。そうした心の乱れ、不安定さは現代も変わっていません。」

「このように、遙か昔から続く心の乱れは未来も消えることなく続くのです。心に平和がない限り、死がある限り、不幸がある限り、宗教的指導者であるこうした偉人の教えはいつまでも生きています。なぜなら、彼らの教えはこうした問題を論じ、解決するためのものだからです。時の流れには無関係なのです。」

「例えば、癌の特効薬が見つかったら、死はなくなるのでしょうか。そんなことはありません。新たな病気が見つかるだけです。エイズを考えてみて下さい。この病気は非常に最近のものです。もし人間が死なない時代がくれば、宗教の必要性は減るのかもしれませんが、しかし、あらゆる生き物は様々な物質から出来ていますから、いつかは元の物質に戻らねばなりません。死とは自然の法則なのです。」
「生死には魂の概念が付きものであり、そこには魂の自由という考えが存在します。ですから、遙か昔の時代に生まれた、偉大な魂たちから伝えられた自由についての教えは、永遠に不変なのです。」

「では、シュリ・クリシュナの教えのポイントは何でしょう。ぐっと凝縮させると、四つにまとめることが出来ます。第一に、この世は本当は幸福な場所でも平和な場所でもなく、永久不変でもないということです。少しの幸福はあるかもしれませんが、その何倍もの不幸があるのです。ですから、この世で無限の幸福や平和を得ることなど出来ないのです。」

「どうしたら真の幸福、平和、喜びを手に入れることが出来るのでしょうか。どうしたら永久不変の存在になれるのでしょうか。それには二つの方法があります。魂を悟る、つまり己を悟る方法と、神を悟る方法です。この二つは結局は同じです。神は魂として私たちの中に生きており、魂が宇宙の普遍の存在となったものが神だからです。」

「では、これらの方法を実践し、真の幸福と平和を手に入れるにはどうすればよいのか。これが教えの第二のポイントです。常に神を想うのです。仕事でも暇な時も、常に神のことを考えるのです。バガヴァッド・ギーターでは、シュリ・クリシュナの弟子であり友人であるアルジュナは、大きな戦争に行かねばなりませんでしたが、シュリ・クリシュナは、アルジュナに戦闘は義務だから戦うように言い、さらにこう言ったのです。『戦いながら私を想え。私を想いながら戦え。』このように、いつも神を想い、いつも神と調和した状態でいるのです。バガヴァッド・ギーターを読むと、この教えが繰り返し出て来ます。」

「他の聖典にも、神と調和しながら仕事を為せ、と書いてあります。もちろん神を想うにはいろいろなやり方があるので、状況に応じて適切な方法を選んで下さい。例えば、瞑想する、神の御名を繰り返し唱える（ジャパ）、礼拝する、などの方法があります。また、神の讃歌を歌う、聖典を読むという方法も可能でしょう。その中から適する方法を選ぶのです。」

「工作中、つまりアルジュナで言えば戦闘中に、瞑想をすることは出来ません。瞑想するには、静かに座って両目を閉じ心の動きを抑制しなければなりません。運転中に瞑想出来ますか。運転中は両目を開けていないといけませんね。昔、インドには目隠しをしてバイクを運転するというマジシャンがいましたが、私にはそのトリックが分かりません。いずれにしても、普通の人は瞑想しながら運転出

来ません。でも、ジャパなら出来ますね。最初は難しく思えるかもしれませんが、練習すれば自然に簡単に出来るようになります。」

「第三のポイントは、無執着です。この教えもギターに繰り返し出て来ます。ヒンズー教や仏教を始めとする霊的な教えに、この無執着という考えが出て来るのはなぜでしょう。それは、愛しても執着しないことが大切だからです。私たちの心は石とは違い、しなやかで他からの影響を受けます。ですから、人を思いやりながらも、いつでも『退(ひ)く』ことが出来るようにしておかなければなりません。自分の配偶者、子供、親戚、友人、近所の人、同郷の者、仲間、世界中の生き物を愛し、同時に無執着でいるのです。なぜか。執着からすべての不幸が生まれるからです。束縛と苦難が生まれるのです。」

「私たちの人生の理想は自由になることです。しかし、何かに執着していることは束縛を意味します。自由と執着は相反するものです。スワミ・ブラマナーンダはかつて『小さくても大きくてもどんな仕事でも、神の仕事と違って為せ』と言いました。どんな仕事でも神が与えて下さったものだと思い、神を喜ばすためにそれをするのです。妻のために、夫のために、家族のためにやらなければ、と思った瞬間、それは執着を生むのです。『私が』『私のものが』と考えると執着が生まれますが、同じことでも神に結び付けて考えるようにすると、結果がすぐに変わってきます。この子達は神が与えてくれた、私のものではない。この任務は神が与えてくれた。そう考えるのです。」

「問題はこう考えることから始まります。『この子は私の息子だ、私の娘だ。私は義務を果たさなければ。』やがて、こう思い始めるのです。『私は義務を果たしてあんなにいろいろとしてやったのに、子供たちは私に何のお返しもしようとしない。子供として義務を果たすべきだ。』人は務めを果たすとき、それを自分のものだと思うと、必ず何かしらの期待をします。すると、期待通りにならないので不満が生ずるのです。ですから、神から与えられた務めだと思って、精一杯やって神に捧げるのです。人間には恩知らずな人がいますが、神は必ずお喜びになり、お礼としてあなたに平和と幸福を与えて下さいます。」

「第四のポイントは他人の中に神を見、他人を愛し他人に仕えることです。この教えもギターに繰り返し出て来ます。自分が愛する人だけに仕えるのでなく、出来る限りすべての人を神と違って仕えるのです。『すべての人の中に私を見、私の中にすべての人を見る者は、正しい態度を取る者である。』という言葉があります。このような心構えがあって初めて、真に人を愛することが出来、この世で平和と幸福を手にする事が出来るのです。」

「シュリ・クリシュナは、自らの教え通りに生きました。クリシュナの教えの持つ力強さは、まさにそこから生まれてくるのです。」

佐藤尚志氏ご逝去

9月19日の例会の冒頭、スワミ・メダサーナダは、協会の「非常に親しい、長年にわたる信者」であった佐藤尚志氏のご逝去されたことを告げました。佐藤氏

は癌の合併症で9月2日に亡くなりました。64歳でした。

佐藤氏の生前を偲んで、協会の書記・小園井氏とスワミが追悼の辞を述べました。佐藤氏は親しみやすく親切な方で、協会の催しなど折に触れて助言や寄付などの支援をして下さいました。ごく最近も、ホーリーマザーズハウスの改築（記事参照）に当たり建築士を紹介して下さいました。また、協会の創立にご尽力された中井さんが病に倒れた際には、佐藤ご夫妻がご自宅に中井さんを招かれ最後までお世話して下さい、協会にご夫妻に大変お世話になりました。

ご夫妻はシュリ・ラーマクリシュナを深く信仰していらっしゃいました。数年前に佐藤氏のご尊父が亡くなられた時には、佐藤氏からスワミに「平和の讃歌と祈りの言葉で父の魂を慰めて下さい」との依頼があり、スワミがバガヴァッド・ギターとヴェーダの讃歌を捧げました。スワミが今回の訃報を聞き佐藤氏のお宅に伺った際、この話を洋子夫人にすると、夫人もまた「祈りの言葉と讃歌を頂くだけで充分です」と言われました。

ホーリーマザーズハウス改築

ホーリーマザーズハウスは日本ヴェーダータ協会の最初の建物で、三十年程前に建築されました。現在の協会の場所から歩いて約十分のところにあり、長年、女性の信者やお客様の宿泊施設として利用されてきました。

建物の老朽化に伴い1994年にホーリーマザーズハウスの大掛かりな補修工事を行いました。が、建物全体の傷みはその後更に進み、最近では、衛生上の問題が生じていただけでなく、地震の際の安全性も心配されていました。

協会の責任役員会ではこの問題について協議し、専門の建設業者に、基礎の部分を含め建物の状態を徹底的に検査してもらうことにしました。検査の結果、改築が望ましいということになり、責任役員会ではホーリーマザーズハウスの改築を行うことを決定しました。但し、設計は質素なものとすることにしました。

新しい建物の一階は協会が発行する本や会報誌を置くスペースとなります。日を追って増えていく書籍類の保管場所を確保することは、早急に解決すべき問題となっていたためです。二階には宿泊用の部屋が四部屋と、小さな台所、洗濯機置き場、洗面所、お風呂などがあります。建物の正面にはかねてから念願だった駐車スペースを設け、四台の駐車が可能となります。

複数の業者に見積もりを出してもらい、その他の種々の必要経費も併せて検討した結果、諸費用を含め約2500万円（22万7千USドル）で建設が可能だと分かりました。

改築作業は今年度中には完了する見込みで、落成式は2005年1月16日の予定です。落成式当日は、ホーリーマザーの第150回生誕祭の結びの祝賀会も執り行う予定です。

ホーリーマザーズハウス改築の様子は、協会のウェブサイト

<http://www.vedanta.jp/hm/>

でもご覧いただけます。

お知らせ： スワミ、カナダと米国を訪問

9月26日～10月26日、スワミ・メダサーナンダが北米のヴェーダーンタ・センターを数ヶ所訪問します。訪問先は、トロント、プロヴィデンス、ボストン、ニューヨーク、ワシントンDC、シカゴ、セントルイス、シアトル。帰国は、10月27日（水）です。

このため、10月の新橋例会および逗子例会は中止となります。

=====

発行：日本ヴェーダーンタ協会
249-0001 神奈川県逗子市久木 4-18-1
Tel：046-873-0428
Fax：046-873-0592
Website: <http://www.vedanta.jp>
Email: info@vedanta.jp
[KENB015J]

=====